

高石市教育委員会定例会会議録

(平成 29 年 10 月定例会)

開会及び閉会の年月日時

開 会	平成 29 年 10 月 11 日午後 3 時 16 分
閉 会	平成 29 年 10 月 11 日午後 3 時 56 分

会議に出席した者の職及び氏名

委 員	教 育 長 : 佐 野 慶 子 委 員 : 西 中 隆 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一
事務局職員	教 育 部 長 : 木 寄 茂 巳 教 育 部 理 事 兼 次 長 : 細 越 浩 嗣 教 育 部 次 長 兼 社 会 教 育 課 長 : 村 田 佳 一 教 育 総 務 課 長 : 西 川 浩 二 学 校 教 育 課 長 : 吉 田 種 司 学 校 教 育 課 長 代 理 兼 人 権 教 育 推 進 室 長 : 清 水 寛 之 教 育 研 究 セ ン タ ー 所 長 : 菅 原 庸 晴 こ だ も 家 庭 課 長 : 家 村 美 雪 子 育 て 支 援 課 長 : 小 林 弘 典 社 会 教 育 課 長 代 理 兼 青 少 年 対 策 室 長 兼 た か い し 市 民 文 化 会 館 長 : 石 田 俊 彦 中 央 公 民 館 長 : 松 井 勉 教 育 総 務 課 長 代 理 : 上 田 麻 紀 教 育 総 務 課 主 事 : 安 岡 佑 美

議題及び議事の要旨及び議決事項

・ 議案第 1 号 高石市教育委員会表彰について

教育総務課長	高石市教育委員会表彰規則第3条第3号及び第4条第3号の規定に基づき、別紙の候補者を表彰するものであり、先ほど開催した表彰審査会において審議いただいた別添一覧の21件の候補者について表彰するものである。
採決	可決。

・ 議案第 2 号 平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果公表について

学校教育課長	<p>議案第2号、平成29年度全国学力・学習状況調査結果公表について、ことし4月に実施した全国学力・学習状況調査について本市小・中学校の調査結果の公表を承認いただくものである。</p> <p>学力調査においての、本市小・中学校における各教科の学力に関する分析の部分と質問紙調査の結果概要として質問紙調査の分析から学習状況に関する部分、その両方の分析から見えてきた課題とそれに対する高石市教育委員会及び学校の取り組み等について公表するものである。</p> <p>学力調査は、小学校6年生では国語、算数、中学校3年生では国語、数学が実施をした。各教科A問題は主として知識に関する問題、B問題は主として活用に関する問題が出題されている。</p> <p>質問紙調査は小学校6年生と中学校3年生の児童・生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する内容について、小学校では92</p>
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>の質問、中学校では94の質問が出されている。結果概要については、この後、課長代理より説明を行う。</p>
<p>学校教育課課長代理</p>	<p>平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について報告する。 別冊資料、平成29年度全国学力・学習状況調査について、平成29年4月18日に実施した調査の結果を高石市全体で集約しまとめたものである。</p> <p>1ページは、学力調査の結果概要になっている。中段にある平成29年度本市の校種、教科、区分別正答率についてである。</p> <p>小学校では、算数A区分が全国、大阪府を上回り、国語A・B、算数B区分は全国を下回るが、大阪府と同等の結果となっている。</p> <p>中学校では、国語A・B区分、数学A・B区分とも全国、大阪府を下回る結果となっている。</p> <p>さらに、校種、教科ごとにもう少し詳しく説明する。 まず、小学校について。</p> <p>グラフの見方については、一番上のグラフは正答率、誤答率、無答率を上から高石市、大阪府、全国の平均の順に記載をしている。また、その下のグラフについては、左側のグラフは小学校国語のA区分では全15問あり、そのうち何問正答したか、つまり全問正答したものが一番右、そこから左へ14問、13問と正答数ごとの人数を表にしたグラフになっている。なお、折れ線グラフが全国で、棒グラフの左側が高石市、右側が大阪府である。</p> <p>さらに、その右のグラフの領域別の正答率について。子供たちの話す・聞く力、読む力などを領域別に、また選択式、短答式、記述式、それぞれの分布別に正答率を示している。</p> <p>2ページの国語A区分については、書くこと、読むことの領域で昨年度と比べ、全国との差が縮まっており、一定の成果は見られるが、依然として基礎・基本の定着に課題がある。</p> <p>また、国語B区分については、3ページ。自分の考えを書く問題の正答率において全国との差が大きく、理由を明確にして自分の考え方をまとめる力に特に課題があった。詳しくは各ページの下欄にそれぞれの傾向について分析を記載している。</p> <p>続いて、小学校の算数について。</p> <p>4ページについて、A区分については、15問全問正答した人の割合が全国より高く、一定の改善が見られる。しかし、最小公倍数を求める問題等での正答率の差が全国と大きく、課題が見られた。</p> <p>また、次の5ページのB区分の問題については、ゼロ問から5問正答した児童の割合が全国より多くなっており、活用力の底上げが課題として挙げられる。また、記述式問題の無答率が高く、特に筋道立てて考察する力に課題があった。</p> <p>続いて、中学校国語について。</p> <p>まず、6ページのA区分については、基礎・基本の定着に課題があり、特に伝えたい事柄を明確にして文章の構成を工夫する力に課題が見られた。</p> <p>また、7ページのB区分については、事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように工夫して話す問題の正答率において全国との差が大きく、事実や事柄と考えや感想等との関係に注意して書く力に課題があった。</p> <p>次に中学校の数学について。</p> <p>まず、8ページのA区分については、基礎・基本の定着に課題があり、特に図形の性質を論理的に考察し表現する力に課題が見られた。</p>

また、9ページのB区分については、無答率の数値が高くなっており、特に資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率において全国との差が大きく、数学的に説明する力に課題があった。

各教科の問題の中で、特に課題のあった問題について、資料最後の15ページから18ページに取り上げている。それぞれの問題においてどのような力が求められているのか、そこからどのような課題が見られるのかを考察している。

続いて、10ページ。

10ページは質問紙調査の結果概要になっている。今年度の調査でも評価に関する調査と同様に、学校生活や授業、生活習慣などに関する質問紙調査が実施された。このページでは高石市の子供たちの学習状況、生活習慣の特徴や課題が見えるところを抜き出しまとめている。

表の中の②、③の自分にはよいところがある、将来の夢や目標を持っているという項目では、全国より低い数値ではあるが昨年度より向上しており、小中9年間で系統立てたキャリア教育を推進している成果だと考えている。⑤のいじめはどんな理由があってもいけないことだと思うという項目では昨年度より低く、今後も道德教育等さまざまな教育活動を通して、いじめは絶対に許さないという意識が向上するよう、取り組みを進めていく。⑧の読書が好きという項目では全国との差が大きく開いているが、小学校においては昨年度より向上した。今後もより一層、読書活動の充実に向けた取り組みを進めていこうと考えている。

続いて、11ページについて。

調査結果からと題している。これらは評価に関する調査、質問紙調査、全体をまとめて分析、考察したものである。学力面では、主に筋道立てた思考をし自分の考えを書く力、生活面では、携帯電話やスマートフォンの時間、家庭学習の時間など家庭での時間の使い方に特に課題が見られた。これらの課題に対する取り組みについては14ページにあるが、後ほど説明する。

12ページ、13ページには各学校、教育委員会から配布している家庭学習の手引、家庭生活の過ごし方、携帯・スマホの使い方、また小・中学校の学力向上の取り組みを掲載した授業改善プラン、そして大阪府教育委員会から配信されている学習教材などを掲載している。

次に、14ページ、高石市教育委員会及び学校の取り組みをについて。

現在、各学校では自校の学力・学習状況調査の結果を分析し、学力向上大作戦プランニングシートに沿った取り組みの検証、見直しを行い、子供たちの学力向上を目指した取り組みを進めている。その際、教育委員会からは、大阪の授業スタンダードに基づいた授業改善を図り、子供たちが主体的、意欲的に活動できる授業づくりを推進するため、指導主事による師範授業の実施や指導助言等、継続的に学校を支援していきたい。

また、今年度より全校に配置している学校司書については前年度より配置しているICT機器等を活用し、子供たちが主体的、意欲的に活動できる授業づくりをさらに推進していけるよう学校を支援していく。

その他にもこのページに記載している取り組みを実施し、調査結果の課題解決、学力向上を目指していく。今後も学力向上に関する方策とともに、子供たちに生きる力の育成を目指し、各家庭にも協力をいただきながら、教育委員会としても取り組んでいきたいと考えている。

西中委員

非常に現場の先生方は、よく取り組んでいるが、なかなか学力というのは一朝一夕では向上しない。特に算数、数学で無答率が非常に高い。

	<p>特にB問題で非常に高いのがなぜかというのはよくわかるが、一つはやはりB問題というのはAと違って、回答に至るまでのプロセスが文章表現やデータ、特に統計的なグラフや表等を見て、考察して答えを出さないといけないため、そういう経験が無いとなかなか答えが見つからない。答えに至るまでのプロセスで諦めてしまうということで、そんなことを繰り返し練習している府県が大分よくなっていると聞く。読み取って深く学ぶというか、あるいは対話をして、資料から読み解いていく、そういう力は、今、文科省が言う、いわゆるアクティブ・ラーニングというか、深い学び、対話というようなことを重視しているが、特に去年から今年にかけて力を入れてきたと等、何か実践があれば報告してほしい。</p>
教育研究センター所長	<p>各学校で課題となっている、言語活動をしっかり充実しないといけないということで、各学校での校内研究のテーマとしては、言語活動を充実させること、コミュニケーション力を育成すること、また子供たちが主体的で対話的な活動ということを大切にすることというテーマをしている。</p> <p>そのような校内研究がしっかり各学校で研究を進めていき、学校全体の取り組みとなっていくために、教育委員会から、大阪の授業スタンダードに沿った形での場面をいかに効果的に設定するかということ継続して指導主事による示範授業の実施や、また校内研究等の討議会でどのようなことを全体の組織的な取り組みにしていこうかということ相談しながら、点数をとるためということではなく、子供たちが活動をしっかり日々の授業でやっていけるための授業改善を図っていけるよう、教育委員会と学校がともに同じ方向を向き、支援していった充実させるという取り組みを進めている。</p>
西中委員	<p>もう一つ、質問紙の調査で、勉強が好きだというのは全国的な平均と比べて、本市は数%低いくらいである。有意差ということ考えれば、勉強が嫌いというわけでもない。だが、学力がつかないということになってくると、指導者というか、高石市の場合、若年の教職員というか初任者の方が非常に多い。府下的な一つの問題かとは思いますが、そういう教員に向けての指導は特別に何か行っているのか。</p>
学校教育課長	<p>まず、大阪府全体の傾向であるが、初任者を大量採用した。そのため、若年層の経験の少ない教員が非常に多いというのは、今回文部科学省でも調査結果が報告されているが、全国でも最も平均年齢が若い、低いということが出ている。もちろん、高石も大阪府と同様の傾向がある。ただ、それについては、初任者もしくは2年目から5年目の教員について、手厚く指導していく必要がある。特に初任者は、初任者指導教員が本当に授業の中に入り込み、日々OJTの中でトレーニングを重ねていっている。よい授業を目指して、今、取り組んでいるところである。</p> <p>また、少し経験を積んでくると少し安心だが、それについても、先ほど教育研究センター所長より説明があったが、指導主事が本当に授業の仕方をまずは手本を見せる。これは他市にもほとんどない取り組みだと思うが、授業を見せて、それで実際にやらせてみて、それでどうやったかという。参加した先生の話によると、やはり授業の仕方がわかったとか、子供たちがよくわかるようになった等の感想があったと聞いており、そういった取り組みを現在進めている。今後もそれを深めていきたいと考えている。</p>
西中委員	<p>文科省がアクティブ・ラーニングと言い出してから、非常に学力、いわゆる定着率や、子供の意欲が高まった等言われている。高石市もアクティブ・ラーニング、いわゆる深い対話と学びについて、若年の先生は</p>

	理解しているのか。
教育部理事	<p>学習指導要領が改訂され、全面実施に向けて周知については、教育課程の研修会等で話をしているが、昨年、一昨年からICTの機器についても、市で予算をいただき、タブレット、中学校も小学校も各校20台ずつ配置している。その20台については、教室で2人に1台で使えるよう考えており、いわゆる主体的、対話的深い学びという、これからの学習指導要領の改訂を見据え、子供たちの主体的に、対話的に学習をする、そのためのスキルの一つとして、タブレットを配置した。</p> <p>これらについても、教員も業で使えるよう研究中であり、先日も課長が指導についている羽衣小学校の授業では、6年生が社会科の授業で20台、2人で1台を使って、子供たちがインターネットにアクセスして、その中でいわゆる調べ学習をしながら、お互いの意見を交わし合いながら授業を進めているという、そういう授業をやっているということがあった。そんな形で配備したものがようやく使われながら、新しい学習形態というのが徐々に教員の中では浸透していくと思う。</p> <p>教育委員会の学校指導課としては、先ほど指導主事が師範授業をしながらという、授業改善とあわせて、今のICTの機器活用についても、教員が授業で使うためにどうしていけばいいかと研究チームをつくり、タブレットの機器活用を有効に使えるような形で去年から研究を進めている。研究をしている教員を中心に学校のほうへまた浸透していくと、学校の中でもタブレットを使用しアクティブ・ラーニングの学習形態ができるのではないかと考えている。</p>
西中委員	要望だが、そういう授業を我々委員が実際に見れる機会を設けていただきたい。
吉村委員	<p>今、西中先生言った無回答について、学問的には学校教育課長代理が答えたようなことが必要になってくるが、実際の教育現場で何が何でも書くという、国語であれば主人公なり主な事象だけを、登場人物を書いていき、あとはそれを述語でつなげていけば文章になる。算数であれば、出てくる数字をある程度出していったらつながりがわかってくるわけで、もし、そういうふうに絶対何か書く、そして書いた場合に教員から採点した場合に努力賞1点であるとか、書くことは無駄にならないような、教え方はしているのか。回答する側からしたら、書いたことが無駄にならないというのが一番大切だと思う。</p> <p>小学校、中学校とは違うが、大学の教授は、それはさておき私はこれについて勉強しましたと、関係のないことを書いても、落第を見逃してくれる教授もいる。やはりそういう何かを書くということは非常に大切で、書くことが報われるというのはやっぱり大切だと思うが、その辺はどうか。</p>
教育研究センター 一所长	<p>各学校でやはり書くことの力が不足しているということで、ノートの中で自分の考えを書いたり、また振り返ったり、その時間で学習しどういことがわかったかということを書くことというものが、全国でも、大阪府のほうでもノートの書き方として進められているというところが、各学校のほうでも取り組んでいる。</p> <p>全時間全部ということは難しいが、学校の先生がノートやマークシートを集めて、それを評価して子供たちに返すというようなことで、子供たちのやる気や、課題となっていることを確認できる取り組みは、各学校で進めていっている次第です。</p>
教育部理事	今の所長の話に補足するが、たまたまある学校に、ちょうど他市から人事交流で2年間来ている教員がおり、話の中でその小学校が今、全学年で取り組んでいるのが今いったノート指導で、1年生から6年生の同じ

	<p>形のノート指導をしようということで取り組んでいる。その教員は、型にはめられるということにすごく抵抗を最初は持ったが、実際にやってみたら、子供たちは、先生が変わっても、ずっと同じ形で学習ができて非常にいい効果が出てきていると話を聞いた。</p> <p>その学校は、2年ほど前からモンジュールという名前で、20字ぐらいの升目に、授業で様々なことを自分の考えを書いていくという取り組みをしている。やはり学校としても、書くことについてはかなり意識を持ち、授業の中でつくっていくという取り組みを実際に行っている。ただ、なかなかまだ結果にはつながってきていない。先ほど西中先生言われたように、B問題の自分の考えをまとめて書くという中でいうと、文章をテストの問題の中で全て読み取って、それをまとめて書くという、そこまでの力がまだついていないのかなという。そこを今後どうしていくかというの、本市の課題だと考えている。</p>
西中委員	<p>私も吉村先生の意見に大賛成である。特に算数、数学というのは解に至るまでのプロセスは、答えは間違えていても、そこに至るまで一生懸命考えて、何とかそれを解決しようとする、そういうものがやっぱり書かないとわからない。頭の中で幾ら考えて黙って座っていてもわからないわけで、できるだけ書かせる、そういう基本をやっぱり徹底してどの学校でもやっていただきたい。ノート指導というか、そういうのを徹底して行う。これはどの教科でも言えると思う。そういうものが、プロセスがわかるというのはやっぱり記録しなといけない。記録しようと思ったら、ある程度論理的な思考も要るので、やたらと書くわけにいかず、少し考える。</p> <p>いろんな子供の実態に応じて考える、その考え方をやっぱり先生方が読み取るというところで、吉村先生が言われたように、プロセスを大事にする、これはアクティブ・ラーニングでも非常に大事にされることである。だから、結果がペケでも、プロセスが合っていたらある程度いいのではないか。なので、そういうところを褒めるという、そういう指導を徹底して、また現場に指導いただいたらありがたいと思う。</p>
佐野教育長	<p>現場の指導主事が学校現場へ行って模範授業をする、これは他市では余り聞かないことで、非常にありがたいことだと思った。指導主事、また課長、理事も現場によく出て、指導していただいていることもよくわかったので、今後もよろしくお願ひしたい。</p> <p>きょうの教育委員の先生方のご意見、また現場の校長先生初め、皆さんに伝えていただいて、より一層励んでいただきたいと思う。</p>
採決	可決

・報告第1号 教育委員会の後援等に関する報告について

各課長	後援承認したものについて説明。
佐野教育長	承認する。

・報告第2号 教育委員会関係諸行事等の報告について

各課長	平成29年10月11日から平成29年10月31日までの行事について説明。
佐野教育長	承認する。

その他委員長が必要と認めた事項

西中委員	平成30年度の公立幼稚園の出願状況は、どのようになっているのか。 もう応募は締め切っているのか。
子育て支援課長	3歳児については、加茂幼稚園での募集となっており、現在11名が応募している。4歳児については、北幼稚園で5名、加茂幼稚園で28名ということで合計33名の方が新たに出願している。5歳児については、加茂幼稚園1名ということで合計1名、現時点で3、4、5歳児あわせて合計45名の方が出願している状況である。 応募に関して、10月2日、3日は過ぎているが、後日でも受け付けは可能となっている。
佐野教育長	これで閉会とする。